

～みなさん「想い」を聞いてください～



空を見上げると、燕が飛びまわっています。思い出します、去年の今頃、燕が当センターの玄関横に巣作り、子育て、巣立っていったころのことを。

なんとなく、昨年巣立っていった雛が、成長し戻ってきてほしい、そんな気持ちになりました。この巣に戻って来たことを想像するだけで、心が「ほっこり」温かくなりました。一年前に少し関わりがあった、それだけで、燕との距離が近く感じられます。人間関係も同じですね。

毎朝『はよう帰ってこんかのお～』そんな思いで、玄関の燕の巣を眺めています。



◆「迷走と反省の連続」コロナ禍の生きづらさ実感（八島指導員）

2021年3月26日夜、配偶者からラインが入る。「今晚、息子が高宮に帰る」旨の連絡が入りました。思わず「え～」の声が出ていました。その理由は、2月中旬に発生した震源の影響で、保険会社に勤務する息子は、その建物等の状況・査定ため、山口県から2週間応援のため、福島県へ出張になっていました。その2週間が終わり、福島からいったん山口に帰り、夜に自家用車で高宮に帰ってくる途中だったようです。その知らせを見て、声が出たのは、気になっていたことがあったからです。ご存知のとおり、行き帰りは新幹線で山口と福島を往復し、出張先での勤務も民家の震災査定であります。当然、人との接触もおおくなり、コロナ禍における感染リスクも高くなるのは自然のことです。この状況を考えると、山口で2週間は、健康観察をしながら、仕事をするだろうと勝手に、私が考えていました。しかし、お土産もあり高宮にしばらくぶりだったことも手伝って、夜遅くに、車で帰ってくる最中であつたようです。

このラインをみて、すぐに、息子へ「体調はどう？大丈夫？」、また、躊躇しましたが「出来れば2週間は様子を見たほうがいいのでは・・・」「帰ってくるなら家から

出ない覚悟で・・・」と言った内容を送信しました。息子からの返信は、「日持ちしない土産があったけ帰ろうとただじゃけ、土産だけ置いて帰ることにするわ」と言う回答でした。結果、それだったら、途中で落ち合うことになり、待ち合わせ場所に22時到着しました。息子は、元気そうな様子。すぐに土産を置いて、山口に帰っていきました。自分の行為は、どうだったのか、「かわいそうなことをした」「申し訳ない」の言葉が頭の中で繰り返されます。配偶者とは、車の中で、このことについては、一切話をしませんでした。反省は尽きませんが、息子は分かってくれていると感じています。もしものことを想像したら、この状況下では理解してもらえます。ただ、ラインを読んだ息子のことを想像しました。自然と申し訳ない気持ちで一杯になります。似たようなことはニュースで聞いたことがあります。改めて、コロナ禍の生活のしづらさを、身をもって経験することになりました。コロナが収束した時、落ち着いてあの時のことを振り返り、改めて、息子にわびたいと考えています。賛否両論様々な意見があると思います。あなたならどうしますか？

ところで・・・

たかみや人権福祉センターって
何をするとところですか？



答え：

**福祉で人権のまちづくり
に取り組んでいます**

福祉とは **ふつうにくらすしあわせ** こんな風に教えて頂いたことがあります。

この世に生まれてきて、ただ、ふつうにくらすこと、とても当たり前のことだと思のですが、それが叶わない人達が地球上には大勢いますよね。

最近、よく耳にするのは、ミャンマーの軍事政権の暴挙や新疆ウイグル地区で起こっている人権侵害、アメリカではアジア系住民へのヘイトクライムの増加、暴力におびえ、子ども達が泣き叫んでいる映像には胸が締め付けられますよね。

一見平和に見える私たちの身近ではどうでしょう。子どもたちは大丈夫でしょうか。いじめや虐待などで心や身体が傷つけられてはいないでしょうか。大人もです、生きづらい社会で、心や身体を病むことなく、生きる気力が保てているでしょうか。高齢者、障がいを持たれた方々、その尊厳を守られ、穏やかで、あたたかな日々を過ごすことが出来ているでしょうか。

たかみや人権福祉センターでは、「相談」という形で、皆さんの生活の中に生じる「生きづらさ」が、少しでも改善されるようお手伝いをさせて頂いております。さらには、その「生きづらさ」が生じるのはなぜ？どうすればそういう社会でなくなるの？このことを皆さんと一緒に考えて行くきっかけを作るために、様々な視点からの「啓発」を行っています。

ふつうにくらすしあわせを誰もが感じる事の出来る、**やさしいまち**を、皆さんと一緒に創って行きたい、そんな思いで職員一同、毎日お仕事をさせて頂いております。